

平成 22 年度水稲病害虫防除実施計画書

平成 22 年 3 月
 JA にいがた 南蒲
 三条農業普及指導センター
 長岡農業普及指導センター

～散布しようとする作物以外に農薬がかからないように細心の注意を～

1. 種子消毒 <消毒の手順>

農薬名横の () の数字は成分数

		エコホープDJ (0成分)			テクリードCフロアブル (1成分)		
塩水選 ↓	○羅病モミを取り除くため必ず実施しましょう。 不良粉・雑菌を減らせます。	区分	比重	水 10ℓあたり食塩の量	水 10ℓあたり硫安の量		
		うるち	1.13	1.9kg	2.5kg		
		もち	1.08	1.1kg	1.4kg		
水洗い・水切り ↓	<エコホープDJ、テクリードCフロアブル使用早見表>	種粉量	4kg	8kg	10kg		
		浸漬法 (200倍)	水量	8ℓ	16ℓ	20ℓ	
			薬量	40ml	80ml	100ml	
浸種 ↓	○雑菌の繁殖を抑えるため、2～3日に1回水換えを行う。 ○生菌微生物農薬なので、化学農薬を使用した種粉とは一緒に水漬けない。 ○浸漬処理を行う。 消毒(方法は二つ!) ●浸漬期間最後の1～2日間、水換えとともに、エコホープDJ200倍液に粉を漬けて(24～48時間浸漬)、直ちに催芽を行う。浸漬液が凍るなど、極端な低温は避ける。 ○薬液温度：10℃以下、30℃以上は避ける。 もしくは、 ●催芽機内の循環水の水温調整をした後に粉を投入(エコホープDJ200倍液中で催芽)。催芽温度は30℃程度(25℃以下、32℃以上は避ける…24時間浸漬)。 催芽後の粉の乾燥は陰干しとし、過度の乾燥は避け、保存せず速やかに種まきをする。 <使用上の注意点> ・生菌微生物農薬なので、化学農薬を使用した種粉とは一緒に水漬けない。 ・反復使用はしない。 ・薬液は放置せず、24時間以内に使用する。	消毒・風乾 <浸漬法> 200倍液に24時間浸漬 <塗沫法> 乾燥種粉1kgあたり原液5mlを塗沫 <使用上の注意点> ・消毒は浸漬前に行い、消毒後は水洗いせずに浸種する。 ・薬液の温度は極端な低温を避ける。 ・消毒効果の安定のため、必ず風乾する(風乾により消毒効果が高まる)。			○消毒効果を高めるため、前半4日間程は水を入れ換えない。 その後は発芽を良くするため、1～2回水を入れ換える。 ○浸種は積算温度100～120℃が目安(10℃で10日間)		
		催芽 ↓	○ハトムネ催芽機を使用する場合、カスミン液剤は加用しないこと(耐性菌が出現しやすい)				
播種	○人工粒状培土を用い、育苗シートは水はけを悪くするので使わない。 ○ベノミル剤(ベンレート・ダコレート)の使用は菌が死滅するため行わない。						
出芽	○無加温出芽の場合、温度条件が気象に左右されやすく障害を受けやすいため、加温育苗がよい。 ○プール育苗の場合の入水や、他の薬剤の使用は緑化期以降とする。						

2. 育苗病害対策 ～ 苗立枯病(カビ類)・細菌性病害(褐条病・もみ枯細菌病)～

※農薬名の () 内の数字は成分数

育苗土での薬剤混和処理	使用農薬	使用量	適用病害
覆土混和	ダコニール粉剤 (1)	1箱あたり 8g	苗立枯病(リゾプス菌)
	カスミン粒剤 (0)	1箱当たり 20g (覆土1ℓ当り)	褐条病・苗立枯細菌病・もみ枯細菌病

《カスミン粒剤の混和処理をしない場合：覆土をかける前にカスミン液剤(4倍液 50ml/箱)を散布する》

《本田での殺菌剤散布と3割減栽培等の観点および病害の発生が少ないことから、床土のタチガレン粉剤は削除しました》

3. 本田防除計画

(病害虫の発生状況により、使用農薬、防除時期を変更する場合があります。時期ごとに配布される「営農技術情報」をよくご覧下さい。)

	品種名	薬剤名 () 内の数字は成分数	適用病害虫	使用時期	散布量	使用回数
箱施用剤	コシヒカリ BL	プリンス粒剤 (1)	イネトオムシ、イネズグウムシ、ウカ類、フタバコガ、カメテウ、イネトムシ、コブノメガ	播種前～移植当日	50g/箱	1回
	コシヒカリ BL (いもち病多発生地区)	Dr. オリゼプリンス粒剤6 (2)	イネトオムシ、イネズグウムシ、ウカ類、イコガ類、イネトムシ、カメテウ、いもち病、もみ枯細菌病、白葉枯病	緑化期～移植当日	50g/箱	1回
	コシヒカリ以外	フルサポート箱粒剤 (3)	いもち病、紋枯病、ウカ類、ツマグロヨコバイ、カメテウ、コブノメガ、イネトオムシ、イネズグウムシ、イネトムシ、フタバコガ	移植2日前～移植当日	50g/箱	1回

	品種名	適用病害虫	防除体系	薬剤名 () 内の数字は成分数	10aあたり散布量	使用時期	使用回数	
本田防除		カメシ類、ウカ類、ツマグロヨコバイ	地上防除	スタークル粒剤 (1)	3kg	収穫 7日前まで	3回以内	
				スタークル液剤10 (1)	1000倍 60～150ℓ			
		カメシ類、ウカ類	無人ヘリ防除	スタークル液剤10 (1)	8倍液 800ml	収穫 21日前まで	2回以内	
				ブラシン粉剤DL (2)	3～4kg			
		全品種	いもち病、ごま葉枯病、変色米	地上防除	ブラシンフロアブル (2)	1000倍	収穫 14日前まで	5回以内
					ブラシンゾル (2)	8倍液 800ml		
			紋枯病	地上防除	バリダシン粉剤DL (0)	3kg	収穫 14日前まで	5回以内
バリダシン液剤5 (0)					1000倍			
			無人ヘリ防除	バリダシンエアー (0)	8倍液 800ml			

- 容器等のラベルをよく読み、安全使用に注意してマスク、帽子等を必ず着用の上、既定量の確実散布を行ってください。
- 住宅等の隣近辺への公害に注意し、飛散や散布時期を考慮するとともに、農作物への薬害防止に努めてください。
- 薬剤残液は、河川、かんがい水路、湖沼、池等に絶対流入しないよう留意してください。(エコホープDJも同様)。
- 栽培記録カードは、作業した日に記入するように努めてください。
- 農薬登録状況確認日 平成22年3月17日